

「患者図書室」利用者が月平均約 2,300 名に ～ 他施設を大幅に上回る利用率 ～

本年 5 月に新本館での診療を開始した総合病院国保旭中央病院(所在地:千葉県・旭市 病院長:吉田象二 以下、旭中央病院)では、同じく5月にオープンした「患者図書室」の利用者が月平均 2,300 名を超え、同図書室が設置されている病院の中で 1 位の利用率となっています。

「患者図書室」は、NPO 医療の質に関する研究会(理事長:郡司篤晃氏 以下、質研)が、患者様が図書室を活用することで病気や治療への理解を深め、納得して医療に参加できるようになること、また、医療従事者による患者様への説明の質と効率が向上し、両者のコミュニケーションが深まることなどを目的に全国 50 病院への設置を目指して 2007 年より取り組んでいるプロジェクトです。現在 30 病院に設置されており、旭中央病院は 27 番目の病院として本年 5 月 17 日に本館 1 階に図書室がオープンしました。病気や医療に関する約 650 冊の書籍が用意されており、外来ならびに入院中の患者様やご家族、職員も利用できます。また、当院図書室にはボランティア 1 名に加え看護師 1 名が常駐しており、利用者からの相談へのアドバイスを行っています。お子様連れの親御さんが落ち着いて利用できるよう、一部子供用の絵本を用意するなど、よりご利用いただきやすい環境づくりにも配慮しています。

質研によれば全設置病院での 1 月あたりの平均利用者数は約 560 名ですが、旭中央病院では本年 5 月～10 月の月平均利用者数が 2,331 人にのぼり、利用率 2 位の施設の倍以上の利用者数となっています。利用者からは「検査について知りたいことが調べられてよかった」「診察の合間に寄ってみたがこの次はぜひゆっくり時間をかけて利用したい」などのコメントが寄せられています。病院長の吉田象二は、「患者図書室は医療の質の向上に寄与するものであり、オープン以来数多くの皆様にご利用いただいていることを大変うれしく思います」と述べています。

旭中央病院の「患者図書室」は、月～金曜日の 9:00～15:00(土・日・祝日および年末年始を除く)の間ご利用いただけます。

旭中央病院について

総合病院国保旭中央病院は 1953 年に開院し、今年で開院 58 年目を迎えました。現在は旭市立の公立病院として、千葉県東部ならびに茨城県南部を含む診療圏人口約 100 万人の基幹病院として機能しています。初期から三次までの救急に 24 時間体制で対応しており、「断らない救急体制」を確立していることも特徴です。救急救命センターをはじめ、ICU、周産期医療センター、リハビリテーションセンター、当別養護老人ホーム、老人保健施設、在宅・訪問看護、緩和ケア、付属診療所など、包括的な地域医療を実践する医療機関でもあり、千葉県の基幹災害医療センターにも指定されています。ベッド数は 989、1 日あたりの平均外来患者数約 3,000 人、年間救急外来患者数は約 65,000 人に上ります。